

授 業 科 目 名	教育相談の実際 (Practice of Educational Counseling)		
科 目 番 号	9801611	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春学期	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	庄司 一子		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1)学校不適応や問題行動の種類と定義について説明できる。</p> <p>(2)不登校の実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(3)いじめや非行についての実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(4)発達障害の種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(5)児童虐待の種類・実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(6)自殺・緊急時対応, その他の適応上の問題について, 種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(7)教職員・保護者・他職種との連携と協力について適切な判断ができる。</p>		
授 業 の 概 要	不登校, いじめ, 非行, 発達障害など, 現代の学校教育現場が抱える様々な心理的不適応に関する問題を網羅的に取り上げ, 実態, 理論的背景, 学校での具体的な対応について, 事例等を交えながら説明する。		
授 業 計 画	<p>第1回: 学校不適応・問題行動とは何か</p> <p>第2回: 不登校の理解と対応</p> <p>第3回: いじめの理解と対応</p> <p>第4回: 非行の理解と対応</p> <p>第5回: 発達障害の理解と対応</p> <p>第6回: 児童虐待の理解と対応</p> <p>第7回: 自殺・緊急時対応</p> <p>第8回: その他の適応上の問題</p> <p>第9回: 保護者・多様な職種との連携</p> <p>第10回: 教育相談の実際(演習)</p> <p>定期試験</p>		
成 績 評 価 方 法	試験と提出課題の成績により総合的に評価する。		
テ キ ス ト	特になし		
参 考 文 献	<p>文部科学省(2010)『生徒指導提要』教育図書</p> <p>石隈利紀・庄司一子(編著)(2014)『生徒指導とカウンセリング』協同出版</p> <p>庄司一子(監修)(2015)『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』ナカニシヤ出版</p> <p>桑原知子(1990)『教室で生かすカウンセリング・マインド』日本評論社</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法			
受 講 学 生 に 望 む こ と			
備 考	<p>旧課程の生徒指導・教育相談Ⅲに対応。</p> <p>1・2年生は履修できません。</p>		

授 業 科 目 名	教育相談の実際 (Practice of Educational Counseling)		
科 目 番 号	9801621	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	火曜 5 限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	濱口 佳和 (総合研究棟 D706 yhama@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜日 13 時 30 分～14 時 00 分		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1)学校不適応や問題行動の種類と定義について説明できる。</p> <p>(2)不登校の実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(3)いじめや非行についての実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(4)発達障害の種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(5)児童虐待の種類・実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(6)自殺・緊急時対応, その他の適応上の問題について, 種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(7)教職員・保護者・他職種との連携と協力について適切な判断ができる。</p>		
授 業 の 概 要	不登校, いじめ, 非行, 発達障害など, 現代の学校教育現場が抱える様々な心理的不適応に関する問題を網羅的に取り上げ, 実態, 理論的背景, 学校での具体的な対応について, 事例等を交えながら説明する。		
授 業 計 画	<p>第1回: 学校不適応・問題行動とは何か</p> <p>第2回: 不登校の理解と対応</p> <p>第3回: いじめの理解と対応</p> <p>第4回: 非行の理解と対応</p> <p>第5回: 発達障害の理解と対応</p> <p>第6回: 児童虐待の理解と対応</p> <p>第7回: 自殺・緊急時対応</p> <p>第8回: その他の適応上の問題</p> <p>第9回: 保護者・多様な職種との連携</p> <p>第10回: 教育相談の実際(演習)</p> <p>定期試験</p> <p>オンライン授業の種類・方法: オンデマンド方式 MS Stream による配信(期間 1 週間)</p> <p>Teams 上に作成された本科目のチーム(9801621 教職科目「教育相談の実際」秋 C 火 5 時</p> <p>限: チームコード 8l3kyx2)への登録者限定で配信。受講生は必ず本チームに登録すること</p> <p>講義資料配布方法: この科目の manaba のコンテンツに添付</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>試験と提出課題の成績により総合的に評価する。</p> <p>本科目の manaba の respon により毎回の出席確認を行う</p> <p>単位取得には 6 割以上の出席が前提</p> <p>manaba 上での期末レポート(小テスト含む)による評価 詳細は後日 manaba 上で告知する</p> <p>レポート提出期間 2 月 10(水)日～19 日(金) (最終年度の学生は 1 月 22 日～29 日(金))</p>		
テ キ ス ト	特になし		
参 考 文 献	<p>文部科学省(2010)『生徒指導提要』教育図書</p> <p>石隈利紀・庄司一子(編著)(2014)『生徒指導とカウンセリング』協同出版</p> <p>庄司一子(監修)(2015)『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』ナカニシヤ出版</p> <p>桑原知子(1990)『教室で生かすカウンセリング・マインド』日本評論社</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	復習をしっかりと行い、わからない点があれば、そのまま放置せず、教員に積極的に質問したり、図書館等で調べたりすることが望ましい。		

受講学生に望むこと	専門用語の意味を正しく把握するようにしてください。学校教育現場で見られる様々な問題を取り上げます。自分が教員として問題に直面した時、どのように理解し、どのように対応すべきかを念頭に置いて学習を進めてください
備考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅲに対応。 1・2年生は履修できません。

実施方法：オンライン（オンデマンド型）

授 業 科 目 名	教育相談の実際 (Practice of Educational Counseling)		
科 目 番 号	9801641	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	火曜 6 限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	濱口 佳和 (総合研究棟 D706 yhama@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜日 13 時 30 分～14 時 00 分		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1)学校不適応や問題行動の種類と定義について説明できる。</p> <p>(2)不登校の実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(3)いじめや非行についての実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(4)発達障害の種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(5)児童虐待の種類・実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(6)自殺・緊急時対応, その他の適応上の問題について, 種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(7)教職員・保護者・他職種との連携と協力について適切な判断ができる。</p>		
授 業 の 概 要	不登校, いじめ, 非行, 発達障害など, 現代の学校教育現場が抱える様々な心理的不適応に関する問題を網羅的に取り上げ, 実態, 理論的背景, 学校での具体的な対応について, 事例等を交えながら説明する。		
授 業 計 画	<p>第1回: 学校不適応・問題行動とは何か</p> <p>第2回: 不登校の理解と対応</p> <p>第3回: いじめの理解と対応</p> <p>第4回: 非行の理解と対応</p> <p>第5回: 発達障害の理解と対応</p> <p>第6回: 児童虐待の理解と対応</p> <p>第7回: 自殺・緊急時対応</p> <p>第8回: その他の適応上の問題</p> <p>第9回: 保護者・多様な職種との連携</p> <p>第10回: 教育相談の実際(演習)</p> <p>定期試験</p> <p>オンライン授業の種類・方法: オンデマンド方式 MS Stream による配信(期間 1 週間)</p> <p>Teams 上に作成された本科目のチーム(9801641 教職科目「教育相談の実際」秋 C 火 6 時</p> <p>限: チームコード 1npu2iy)への登録者限定で配信。受講生は必ず本チームに登録すること</p> <p>講義資料配布方法: この科目の manaba のコンテンツに添付</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>試験と提出課題の成績により総合的に評価する。</p> <p>本科目の manaba の respon により毎回の出席確認を行う</p> <p>単位取得には 6 割以上の出席が前提</p> <p>manaba 上での期末レポート(小テスト含む)による評価 詳細は後日 manaba 上で告知する</p> <p>レポート提出期間 2 月 10(水)日～19 日(金) (最終年度の学生は 1 月 22 日～29 日(金))</p>		
テ キ ス ト	特になし		
参 考 文 献	<p>文部科学省(2010)『生徒指導提要』教育図書</p> <p>石隈利紀・庄司一子(編著)(2014)『生徒指導とカウンセリング』協同出版</p> <p>庄司一子(監修)(2015)『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』ナカニシヤ出版</p> <p>桑原知子(1990)『教室で生かすカウンセリング・マインド』日本評論社</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	復習をしっかりと行い、わからない点があれば、そのまま放置せず、教員に積極的に質問したり、図書館等で調べたりすることが望ましい。		

受講学生に望むこと	専門用語の意味を正しく把握するようにしてください。学校教育現場で見られる様々な問題を取り上げます。自分が教員として問題に直面した時、どのように理解し、どのように対応すべきかを念頭に置いて学習を進めてください。
備考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅲに対応。 1・2年生は履修できません。

授 業 科 目 名	教育相談の実際 (Counseling Practices in Education)		
科 目 番 号	9801651	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 C	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	庄司 一子 (総合研究棟D D315 ichiko@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜日 15:00~16:30		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1)学校不適応や問題行動の種類と定義について説明できる。</p> <p>(2)不登校の実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(3)いじめや非行についての実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(4)発達障害の種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(5)児童虐待の種類・実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(6)学校安全、緊急時対応、その他児童生徒の適応上の問題等への学校での対応、生徒支援について説明できる。</p> <p>(7)教職員・保護者・他職種との連携と協力について適切な判断ができる。</p>		
授 業 の 概 要	不登校、いじめ、非行、発達障害など、現代の学校教育における児童生徒の不適応問題を取り上げ、実態、理論的背景、学校での具体的対応等について、事例を交えながら概説する。		
授 業 計 画	<p>■2月6日(土)</p> <p>第1回:学校不適応・問題行動とは何か、教育相談の基礎</p> <p>第2回:不登校の理解と対応について</p> <p>第3回:いじめの理解と対応について</p> <p>第4回:非行の理解と対応について</p> <p>第5回:発達障害の理解と対応について</p> <p><試験1> リアルタイムで manaba(レポート)に直接入力</p> <p>■2月7日(日)</p> <p>第6回:児童虐待の理解と対応について</p> <p>第7回:特別支援教育・発達障害</p> <p>第8回:学校安全、緊急時対応について</p> <p>第9回:その他の児童生徒の適応上の問題への対応について</p> <p>第10回:教育相談の実際(演習)</p> <p><試験2> リアルタイムで manaba(レポート)に直接入力</p> <p>オンライン授業の種類・方法:リアルタイム方式 (機器の不具合、Wi-Fi 環境等の事由により授業が一部、受講できなかった学生には、個別対応により録画授業を配信する等の配慮を行う。)</p> <p>講義資料配布方法:本科目の manaba のコンテンツに事前に配布する。</p>		
成 績 評 価 方 法	①授業参加(2/3 以上必須)、②二日間の試験(オンライン・リアルタイム・直接入力方式)の成績、③授業中に随時求める課題提出状況、により①~③に基づき総合的に評価する。		
テ キ ス ト	石隈利紀・庄司一子(編著)(2014)『生徒指導とカウンセリング』協同出版 庄司一子(監修)(2015)『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』ナカニシヤ出版		
参 考 文 献	文部科学省(2010)『生徒指導提要』教育図書 藤田晃之ほか(編著)(2019)『最新教育キーワード155』時事通信社		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	予習・復習をしっかりと行うこと。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	2/3 以上の授業参加は単位取得の上で必須。授業中の課題は必ず提出すること。ディスカッションに積極的に参加してもらいたい。		
備 考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅲに対応。		

授 業 科 目 名	教育相談の実際(Practice of Educational Counseling)		
科 目 番 号	9801661	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 C	曜 時 限	火曜・1、2 限
対 象 学 群 ・ 学 類	体育学生主対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	佐藤 有耕 (人間系学系棟 A344 yuhkohst@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	火曜日 11 時 40 分～12 時 00 分		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1)学校不適応や問題行動の種類と定義について説明できる。</p> <p>(2)不登校の実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(3)いじめや非行についての実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(4)発達障害の種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(5)児童虐待の種類・実態・生起メカニズム・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(6)自殺・緊急時対応, その他の適応上の問題について, 種類・特徴・教育相談での対応について説明できる。</p> <p>(7)教職員・保護者・他職種との連携と協力について適切な判断ができる。</p>		
授 業 の 概 要	不登校, いじめ, 非行, 発達障害など, 現代の学校教育現場が抱える様々な心理的不適応に関する問題を網羅的に取り上げ, 実態, 理論的背景, 学校での具体的な対応について, 事例等を交えながら説明する。		
授 業 計 画	<p>第1回:学校不適応・問題行動とは何か</p> <p>第2回:不登校の理解と対応</p> <p>第3回:いじめの理解と対応</p> <p>第4回:非行の理解と対応</p> <p>第5回:発達障害の理解と対応</p> <p>第6回:児童虐待の理解と対応</p> <p>第7回:自殺・緊急時対応</p> <p>第8回:その他の適応上の問題</p> <p>第9回:保護者・多様な職種との連携</p> <p>第10回:教育相談の実際(演習)</p> <p>定期試験</p> <p>■オンライン授業の種類・方法:オンデマンド方式 manaba「コースニュース」に記載された stream の URL から, その回のビデオ教材を視聴する。</p> <p>■講義資料配布方法:「コースコンテンツ」に各回の配付資料を置くのでファイルをダウンロードして活用する。</p> <p>* オンライン授業の詳細については, 授業開始日以前に, コースニュースに掲示します。</p> <p>* オンデマンド方式になじませるため, 例年と異なり今回は演習を行わず, 順番と内容も若干の工夫を試みます。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>試験と提出課題の成績により総合的に評価する。</p> <p>■①各回の manaba「アンケート」による 10 分程度の出席確認コメントペーパー提出, 及び②学期末の manaba「レポート」による A4 判 3 枚程度のレポート提出から, 到達目標の基準に照らして成績評価を行う。なお, ①は授業終了後 3 日間程度の期間内に提出, ②は課題の公開から提出までの期間を 2 週間程度とする。</p>		
テ キ ス ト	特になし		
参 考 文 献	<p>文部科学省(2010)『生徒指導提要』教育図書</p> <p>石隈利紀・庄司一子(編著)(2014)『生徒指導とカウンセリング』協同出版</p> <p>庄司一子(監修)(2015)『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』ナカニシヤ出版</p> <p>桑原知子(1990)『教室で生かすカウンセリング・マインド』日本評論社</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	毎回の講義の最後に, 提出課題を出します。課題に取り組むことで, 教育相談について自分なりに考えてもらいます。特別な予習の必要はありませんが, 講義内容を良く聞いて, 講義時間外に自分で考え, それをレポートするという学習を行ってもらうことになります。		

受講学生に望むこと	話を聞く, 考える, 書く, 調べる, 話し合う, などの多様な手段による積極的な学びを期待します。その一環として, 教育相談に関連する心理学の研究を経験するために, 質問紙調査等への回答協力を依頼することがあります(強制ではありません。回答への協力は自由です)。
備考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅲに対応。 1・2年生は履修できません。